

《対談》

われらみな「風下っ子」

アーサー・ビナード
中澤晶子

〔構成：西山利佳〕



（撮影：前田憲明）

アーサー・ビナード

詩人。一九六七年、米国ミシガン州生まれ。大学卒業と同時に来日、日本語での詩作を始める。二〇〇一年に詩集『釣り上げては』（思潮社）で中原中也賞、〇七年に『ここが家だ——ベン・シャーン』の第五福竜丸（集英社）で日本絵本賞ほか受賞多数。二〇一一年より広島市在住。ヒロシマの写真絵本『さがしています』（童心社）が最新作。

中澤晶子

作家。一九五三年、名古屋生まれ。広島市在住。一九八五年、『1983年熱い秋のノート』（汐文社）でデビュー。一九九一年、『ジグソーステーション』（汐文社）で野間児童文芸新人賞を受賞。昨年、チェルノブイリ事故を題材とした『あしたは晴れた空の下で』（八八年）が二三年ぶりに新装版で復刊された。某老舗百貨店のコピーライターでもある。

二〇一二年五月四日、原爆投下直後、家族や知人の消息をたずねる伝言が記された壁が保存された「袋町小学校平和資料館」と隣接する「広島市まちづくり市民交流プラザ」にて、お二人に対談していただきました。以下、当日立ち会った本誌編集長西山が構成しました。